

東日本大震災被災地自治体 ICT 担当連絡会（ISN） 公開セミナー

「東日本大震災と自治体 ICT」

主催者挨拶 【宮城県震災復興企画部情報政策課 佐藤 達哉課長】

本日は皆さんに宮城、仙台にお出でいただき、またこの公開セミナー「東日本大震災と自治体 ICT」にご参加いただいたことに感謝する。また、協賛をいただいた企業の皆さま、ご講演いただく皆さまには、今回の公開セミナーを応援していただいたことに感謝している。

加えて3月の東日本大震災以来、全国からたくさんの物心両面にわたる温かいご支援を、今も頂戴している。この場をお借りして、御礼を申し上げたい。

仙台はだいぶ寒くなってきた。本日も朝4時に震度4の地震があったが、そのような事があると、やはり3月のことを思い出してしまう。仙台は街並みも非常に穏やかで、8カ月前にあんな事（大震災）があったということを、なかなか想像しにくい状況だが、沿岸部はまだ大変な状況である。住宅やがれき、雇用、教育、福祉の問題など、いまだ状況は厳しく、8カ月を経過した現在も、まだ「有事」という状況でわれわれは仕事をしている。

3月11日の震災直後から、我々宮城県と、一緒に活動している仙台市には、全国から数々の支援の申し出があった。大変ありがたく思う一方で、こちら側も混乱した状況にあり、なかなか支援が本当に必要なところに届かない状況であった。仙台市も同じように感じており、その支援をできるだけ被災地とマッチさせたいという思いから、この「東日本大震災被災地自治体 ICT 担当連絡会（ISN）」を立ち上げ、支援を必要とする被災地の自治体と支援をいただける企業や団体の皆さまのマッチングサイトをインターネットに設けた。おかげさまでパソコンの提供、ICTを活用したソリューションの無償提供などを、少しずつではあるが実現することができた。

そうこうするうちに、仙台市から、ISN 会員の方々に3月11日のことを話していただき、それを皆で共有することが今後の復旧・復興に役立つのではないかと、との提案をいただき、それはいい考えだ、ということで、今回のセミナー開催と相成った。

本日は、「あの時何があったのか」「その時どう対応したのか」「どんな課題があったのか」「他でこれが起きたらどういう事ができるのか」といったことを、現場の担当者の生の声として皆さまにお伝えできると思う。これを必ずや今後の復旧・復興に役立てていくとともに、この宮城・仙台からそうした教訓を全国に発信し、全国の災害に強い街づくり、地域づくりに役立てていければ幸いである。

本日お集まりの方々の今後のご活躍、それから被災地の一日も早い復旧・復興、そして再生が実現するように心からお祈り申し上げ、冒頭のご挨拶とさせていただきます。